



夕方の5～7(ゴータナ)は“魔の時間”
 ～歩行者は反射材等を着用
 ドライバーは早めのライトオン～

交通事故防止のPOINT

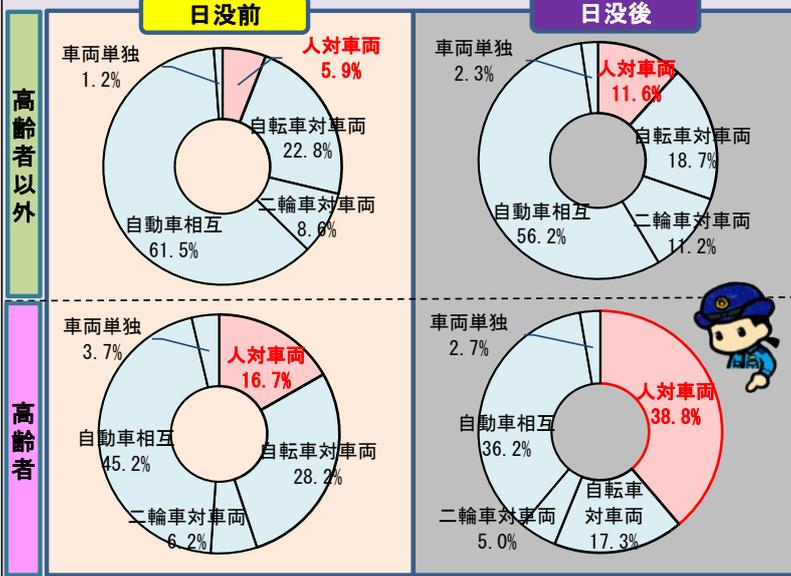
12月号



日没後は高齢歩行者事故が多発!

～加齢による視機能の変化を知りましょう～

【昼夜別死傷者数(構成率)】 ※過去5年(令和元年～令和5年)に愛知県内で発生した事故(列車事故を除く)をもとに作成



左の表をご覧ください。
 交通事故による「人(歩行者)対車両」事故の死傷者構成率は、「日没前」よりも「日没後」、「高齢者以外」よりも「高齢者」が多いことがわかります。

特に「日没後」の「高齢者」の死傷者構成率は、顕著に高くなっています。

先月号は、眼の特性から、暗い時間の事故防止についてお伝えしましたので、今回は、加齢に伴う視機能の変化を紹介します。

11月号に引き続き、

日本交通医学工学研究会所属 名古屋大学医学部眼科 病院助教 井岡大河先生に伺いました!

POINT 加齢に伴う視機能の変化(低下)を理解し、安全確認をより慎重に!



井岡先生

年齢を重ねると以下のような視機能の変化があります。
 理解したうえで慎重な運転や歩行時の安全確認をお願いします。



①老人性縮瞳(ろうじんせいしゆくどう)
 暗いところで瞳孔が開きにくくなり光を取り込みづらくなるため、若年層よりも物が見えにくくなります。

②視細胞の減少
 暗い中で動く物や光への反応が低くなります。

③ドライアイ
 涙の量が減り、光の散乱やまぶしさを強く感じるようになります。

④角膜のごり
 透明性が失われ、視力が低下したり、まぶしさを感じるようになります。

⑤眼瞼下垂(がんけんかすい)
 まぶたが下がってきて、上方が見にくくなります。

⑥緑内障・白内障のリスク増
 視野が欠ける、狭くなる、ぼやけてみえる、暗い場所で見えにくくなる、物がダブって見えるなどの症状が現れます。



名古屋大学医学部眼科 結城賢弥准教授

加齢による視機能の変化は、ゆっくり進行することが多いため**自分で気が付きにくいものです**。視力が良いからと安心せず、積極的に眼科を受診し、検査により現在の自分を知ったうえで、安全な行動をとることがとても重要です。

これらの変化は、歩行者、ドライバーともに交通事故の発生に影響する可能性があります。すべての年代の方が、「自分の存在は相手に気づいてもらっているのか」、「自分が認識していない人や車がいらないか」を考えて行動することが大事です。



◆12月の日没時刻は、午後4時40分(1日)から午後4時50分(31日)です。